

—令和4年度—



研究だより

山口大学教育学部附属光学園
光小・中学校



well-being につながる学び（1期） ～教科等の本質に迫る授業づくりを通して～

本校では、新規研究期にあたる今年度から、教科等の本質に迫りつつ、well-being につながる学びの在り方を提案したいと考えています。

これからの時代は、不安定さ、不確実さ、複雑さ、曖昧さの頭文字をとったVUCAな時代となることが予測されています。子どもたちは、このような時代の中で自分たちの実現したい未来をつかっていく力を付けることが重要です。この「実現したい未来」こそが「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態＝well-being」です。

そこで、1期はOECDのEducation2030プロジェクトや現行の学習指導要領を踏まえた上で、各教科等で、well-being につながる学びの在り方についての研究を進め、それを基にした授業実践を行いました。

この研究だより春号では、2月11日に行った小中一貫教育研究協議会の様子を基に、各教科等の理論や授業実践をお伝えします。



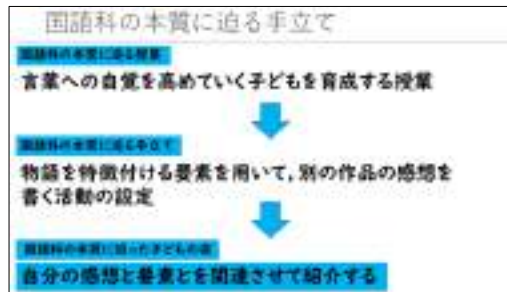
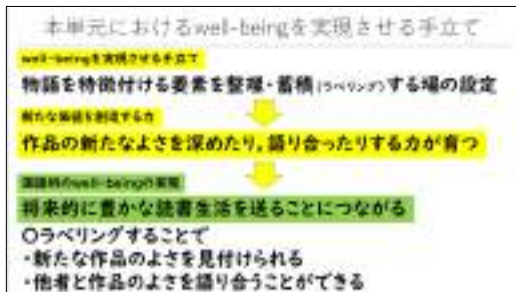
【国語科】

教科等の本質に迫る授業

言葉への自覚を高めていく子どもを育成する授業

たぬきの糸車の〇〇が大すきだよ！ ～『たぬきの糸車』（光村図書 1年）～

小学1年 有田 友萌



授業説明

国語科の本質に迫る手立てとして、『たぬきの糸車』で蓄積した物語を特徴付ける要素である行動や音の表し方などを用いて、第三次で『おむすびころりん』の感想を書く活動を設定しました。そうすることで、「面白さの決め手は、おじいさんの行動だ」「『すっとんとん』や『ころりん』という音の表し方はたぬきの糸車と似ていて面白い」と、感想と要素とを関連させて紹介する姿が見られました。



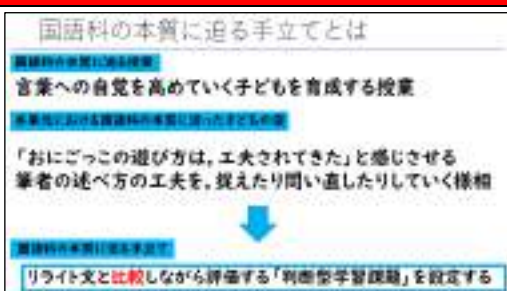
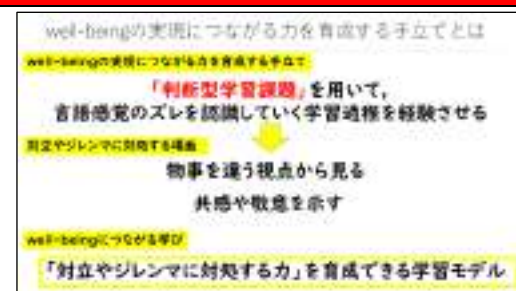
参会者の声

- ・「well-being の実現につながる学びの手立て」が教科の横断や汎用的な力となっていくような研究になるとよいのではないか。
- ・クリティカルに読ませることと、情緒的に読み味わうことの両立を図るためにも、身に付けたい力を明確にして授業を行うことが重要である。
- ・低学年のうちから「どこが好きか」「どこが面白いか」ということを友達と対話することで文学的文章の本質を捉えた学習ができると感じた。



「工夫」を伝える述べ方の工夫とは？ ～『おにごっこ』（光村図書 2年）～

小学2年 田中 章憲



授業説明

提案授業の本時では、筆者の段落のつなぎ方と教師がリライトした段落のつなぎ方を比較して、どちらが分かりやすいかについて評価する「判断型学習課題」を設定しました。そうすることで、述べ方による感じ方の違いを捉えたり問い直したりしながら、「ところが」「そこで」の接続語を使った効果について、自分の考えを形成していく姿が見られました。



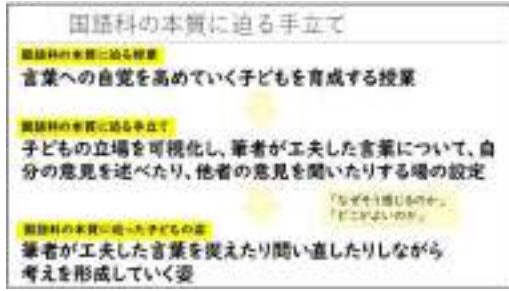
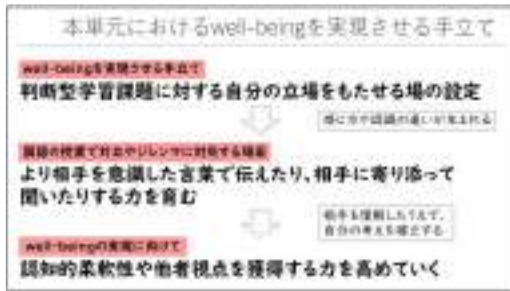
参会者の声

- ・リライトした文章との比較によって、接続する言葉の妥当性を真剣に考える児童の姿がとても印象に残った。今回の実践を通して、言葉の選び方、書かれ方への意識がいっそう高まったと思う。
- ・相手の立場を尊重しながら、よりよい考えを導き出そうとしているところが、well-beingにつながっていることがわかり、大変勉強になった。



対象の魅力を伝えるための効果的な表現に迫る
 ～『君は「最後の晚餐」を知っているか』
 『「最後の晚餐」の新しさ』（光村図書2年）～

中学2年 貞安 菜央



授業説明

国語科の本質に迫る手立てとして、『最後の晚餐』の魅力はどちらの筆者からより伝わったか』について、考えをもたせる場を設定しました。そうすることで、文種の違いを踏まえた上で、レトリックの効果や文章の構成に着目し、それぞれの筆者が工夫した表現について語り合う姿が見られました。

参会者の声

- 生徒の発言がとてもおもしろいと感じた。意見を可視化するだけでなく、似た意見の付箋をまとめる等があれば、さらに対話に活かせると感じた。
- 今年度新たに追加された解説文との比較は、新しい視点で大変参考になった。ICT もしっかりと活用されていて、Google Jamboard は使ったことがないが、ぜひ使ってみてみたいと思った。

【音楽科】

本質に迫る授業

仲間と共に音や音楽に積極的に関わっていく生徒を育成する授業

作曲者の意図に思いを馳せて歌おう
 ～君は君でいい（教育芸術社）～

中学1年 白地めぐみ



授業説明

音楽科の本質に迫る手立てとして、作曲者の思いを、音楽を形づくっている要素と関連付けながら想像する活動を設定しました。そうすることで、楽曲の背景や作曲者の意図を考えようとする意欲が芽生えるとともに、作曲者の思いを大切にしながら、歌唱や指揮に取り組む姿が見られました。

参会者の声

- 指揮で作曲者の思いを表現してみるという活動が、歌唱で学ぶ内容よりもさらに濃いものになると感じた。
- 高橋先生の発声指導は、well-beingの指針になるスキルの定着につながると感じ、しっかりと土台のうえに表現力が加わるとさらに表現を追究できると思った。
- 指揮での表現を歌唱に生かしたものをぜひ見てみたいと思った。



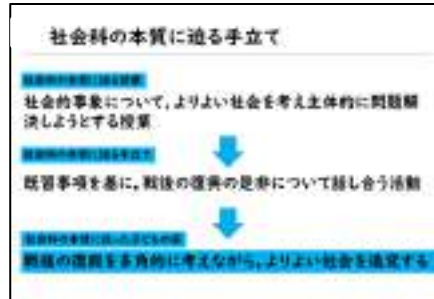
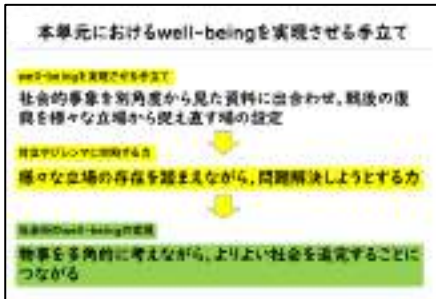
【社会科】

本質に迫る授業

子どもが社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする授業

よりよい社会とは？ ～平和で豊かな暮らしを旨として～

小学6年 千々松 哲大



授業説明

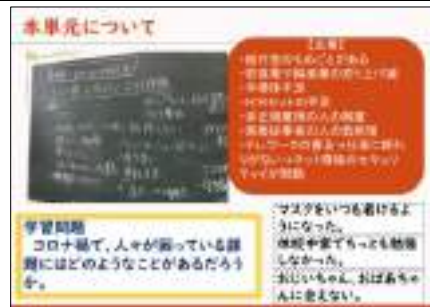
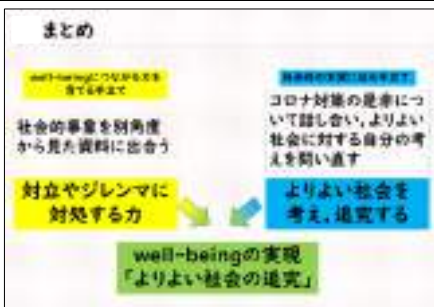
社会科の本質に迫る手立てとして、既習事項を基に、戦後の復興の是非について話し合う活動を設定しました。そうすることで、戦後の復興を多角的に考えながら、自分の考えを問い直したり、経済成長と環境保護を両立する社会を追究したりする姿が見られました。

参会者の声

- 板書をタブレット端末に毎回送るという案は、学びを蓄積する上で非常に有効だと感じた。
- well-being につながる学びにむけて、考えを裏付ける根拠を語れる子どもを育てていく必要性を改めて感じた。
- 子どものこれまでの学びだけで話を深めるといのは、限界があるように感じる。自分事として考えられる資料が何かしら必要なのではないか。

これからの日本経済 ～コロナ後の経済～

中学3年 吉岡 友子



授業説明

既習事項を生かしながら、コロナ対策と今後の日本経済について話し合い、よりよい社会に対する自分の考えを問い直す活動を設定しました。そうすることで、近未来の2030年、2050年問題に対してどう対処し、どんな社会にしたいかを主体的に考える姿が見られました。

参会者の声

- well-being のある社会づくりを目指す上で、コロナを考えることは避けられないことだと思う。
- 「社会科の本質」という視点では、社会的事象の単なる評価になってしまっているのではない。
- 諸外国や歴史の比較、縦と横の比較がされており、そのあたりの工夫が学べた。

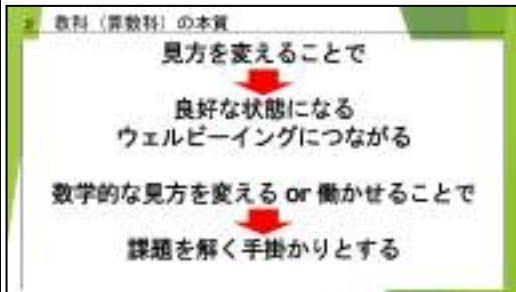
【算数・数学科】

本質に迫る授業

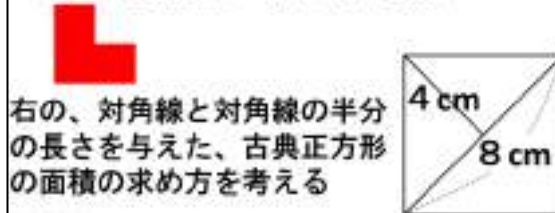
数学的な見方・考え方を働かせて、問題解決に必要な問いを紡ぎ、数学的活動を自ら遂行する子どもを育成する授業

どっちの方が広いかな？ ～ 見方を味方にしよう！ ～

小4年 山本 東建



第4学年の「面積」
L字型の複合図形の、次時の授業



授業説明

算数科の本質に迫る手立てとして、対角線の長さしかわからない正方形の面積を求積する活動を設定しました。そうすることで、既習図形との比較から辺の長さに着目し、見方を変えて、正方形を分解して2つの小さい正方形に見立て直し、図を操作しながら求積の仕方を説明する姿が見られました。



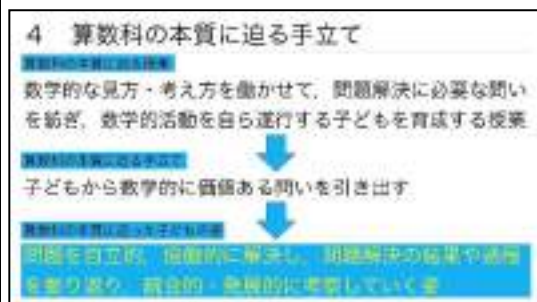
参会者の声

- well-being という新たな研究主題に向かって、子どもの問いを大事に活動されていることがよくわかった。算数科の教科の本質と well-being とのつながりについて、深く考えていきたい。
- 授業の教材は凄くよかった。教師と子どものやり取りのバランスを探るきっかけになった。



見た目では判断するのはあぶないぞ ～割合～

小学5年 兼安 陽一郎



授業説明

算数科の本質に迫る手立てとして、広告を用いて「50%OFF+20%OFFは何%OFFか」を探る活動を設定した。そうすることで、子どもは、粘り強く対話を続け、この広告が50%OFF+20%OFFは最大60%OFFとしている考え方やその式について、筋道を立てて説明する姿が見られました。



参会者の声

- 難しい教材だったが、そこに隠れているwell-beingにつながる価値、算数科の本質につながる価値を考えることができた。算数科の問題解決の流れはwell-beingとも結びつくという考え方にハッとさせられた。
- 教師自身の問題意識が、授業を構想・展開していく上で重要だということがわかった。特に、割合克服カリキュラムについてもっと詳しく知りたい。



【算数・数学科】

本質に迫る授業

数学的な見方・考え方を働かせて、問題解決に必要な問いを紡ぎ、数学的活動を自ら遂行する子どもを育成する授業

つくる、決める、分ける ～三角形・四角形～

中学2年 竹坂 豊

数学科の本質に迫る授業
数学的な見方・考え方を働かせて、問題解決に必要な問いを紡ぎ、数学的活動を自ら遂行する子どもを育成する授業
数学の本質 = 人の心の動き
心に浮かぶ対象を取り出し、その構造を探求していくもの



授業説明

数学科の本質に迫る手立てとして、直線を引いて合同な三角形の組を「つくる」、「仮定を設定する（決める）」活動を設定しました。そうすることで、自らの直観に対し、すでに学んだ知識や技能を活用し、論理的に他者に説明しようとする姿が見られました。

参会者の声

- 単元や学年、校種を通して見通しをもって指導していく大切さを改めて感じた。
- well-being について考えるときに、各教科に分かれて話し合うことも必要だと思うが、特に研究の初期段階においては、教科の異なる人たちが集まって一緒に考えて創り出していくことも大切ではないか。

ピタゴラスの熱気球 ～三平方の定理～

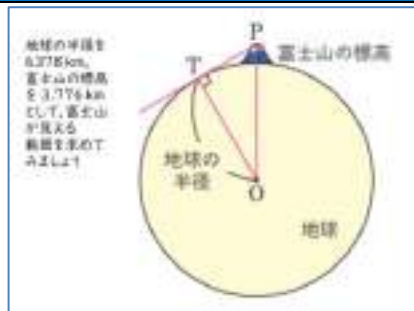
中学3年 吉村 直樹

見方を変えることで

→ 良好な状態・関係になる
ウェルビーイングの実現

数学的な見方を変える 働かせることで

→ 課題を解く手掛かりに気付かせることができる



授業説明

数学科の本質に迫る手立てとして、実際には計ることが難しい値を、簡易な図形を活用し、既習の定理を使って数値を求める活動を設定しました。そうすることで、すでに学んだ知識や技能を活用し、更に発展的に考えようとする姿が見られました。

参会者の声

- 難易度の高い課題に取り組み、生徒も意欲的であった。できればドローンを使って実際に見せるなどして、感動を味わわせてほしかった。
- 概念的に考えることが難しく、誤差の範囲を生徒がどの様に捉えているのかを知りたかった。

【理科】

教科等の本質に迫る授業

科学的に、みんなで納得まで辿り着く授業

3つの視点に着目した授業づくりの提案 ～単元「電気の通り道」「磁石の性質」の実践を通して～

小学3年 宮崎 洸佑



授業説明

左図の【well-being と理科の本質】に示した力を育成するため、右図の3つの経験を重視しました。2単元を終えての振り返りでは、実験が楽しいという思いから、みんなで納得するために、実験から考えをつくるのが楽しいという思いへと、子どもたちの姿に変容が見られました。



参会者の声

- 新しい授業づくりの視点があり面白かった。同時に、科学する、サイエンスをするということの本質にしっかりと迫っていくことが重要であると感じた。
- 2つの単元間での子どもの変容を比較することにより、子どもの意識の変化や力の育成がわかりやすかった。



科学的な手続きによる自己や他者の考え方の改善 ～月の動きと見え方～

中学3年 米村 崇



授業説明

本実践では、科学的な手続きとして、まず仮説を立て、それについて全員で議論し、検証実験をするといった授業構成を行いました。議論では、知識をもとに根拠を示し、さらに今回はモデル実験で検証をしました。そうすることで、論理的に説明したり、目的意識を高くもって実験をしたりする姿が見られました。



参会者の声

- well-being にはたくさんの要素がある。その一つが資質能力や論理的な思考である。次の単元で、ここでの学びで身に付けた力が使えているかをみとることが大切である。
- 理科での学びとして、議論や判断の基準が科学的にできているかが大切である。



【生活科】

教科等の本質に迫る授業

自立し、生活を豊かにしていく子どもを育成する授業

再発見！ わたしのきらり
～ あしたへ ジャンプ ～

小学2年 徳永 真衣



「わたしのきらり」
画用紙に現在の自分のよさやがんばり、過去の自分の様子について付箋でまとめたもの



授業説明

生活科の本質に迫る手立てとして、家族からの手紙を手がかりに、自分の過去について伝え合い、「わたしのきらり」に整理する活動を仕組みました。そうすることで、「ぼくが生まれたとき、こんな様子だったんだ！」と、自分の知らない過去に驚いたり、「わたしはどうして、この名前になったのかな」と、興味をもったりする姿が見られました。このような思いや願いをもった子どもたちは、自分の過去について積極的に調べる中で、成長を支えてくれている人々の存在に気づき、3年生でのさらなる成長への意欲をもつことができました。

参会者の声

- ・家族からの手紙を読むことは、自分の過去について興味をもつことに効果的だと感じた。
- ・子どもたちの授業風景から、「学びたい」という意欲が強く伝わってきた。

【総合的な学習の時間】

教科等の本質に迫る授業

自己の生き方を問い続けていく子どもを育成する授業

今後の自分を見つめ隊
～働く人々の思いから自分の思いへ～

小学4年 大塚 進真



「マイワークブック」
働く人々の職業選択の決め手を基に、今の自分にとっての働く際の決め手と、今後自分にできることを、見つめ直していくことができるもの



授業説明

総合的な学習の時間の本質に迫る手立てとして、職業選択の決め手の異なる様々な働く人々と関わる活動を設定しました。そうすることで、他者の思いを基に探究を進め、「〇〇さんの自分が楽しいという決め手が大切だと思うな」「今後自分が好きなことを見つけたいな」と、自己の生き方を考える子どもの姿が見られました。

参会者の声

- ・決め手として多様な視点を与えることが将来につなげるために大切だと感じた。
- ・二分の一成人式の充実に向けて総合を位置づけることが大切だと感じた。
- ・空想期の4年生の段階で、なぜ職業選択の決め手だったのか、小中一貫でキャリア教育をどうつないでいくかを考えていく必要があるのではないかと。

【図画工作・美術科】

教科等の本質に迫る授業

自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだしていく子どもを育てる授業

自分だけの形を生み出そう！

～『糸のこスイスイ』（日本文教出版5・6年上）～

小学5年 池内 達也

<p>図画工作科の本質に迫るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具に十分に關わる場の設定 ・作品を比較させ、造形的な視点に着目させる場の設定 ・学びを振り返ったり、確かめたりすることのできる場の設定 	<p>新たな価値を創造する力を育成するための手立て</p> <p>表現と鑑賞の一体化を図り、「つくり、つくりかえ、つくる」ことのできる場を設定</p>
<p>図画工作科の本質に迫る学び</p>	<p>well-beingにつながる学び</p>



授業説明

図画工作科の本質に迫る手立てとして、固定具を用いて、木板を仮止めし、様々な組合せを試すことのできる場を設定しました。そうすることで、組み合わせる木の形や形の向きを変えながら、様々なイメージを生み出そうとする姿が見られました。

参会者の声

- ・図工・美術の教科を通して、「価値」を確かめたり見出したりすることがwell-beingにもつながっていくと感じた。
- ・小中一貫であるので、例えば、来年度、今の6年生が中学校に上がり、このように変化が見られたなど、美術を通して育った姿を実感できる実践などがあると研究主題につながる取組になると思った。



失われた絵を復元しよう

～『モネの睡蓮の鑑賞』（日本文教出版1年）～

中学1年 中村 賢太



美術科におけるwell-beingを実現させる手立て

教科の本質に迫る姿

「対象や事象を造形的な視点で見え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす姿」

well-beingにつながる学びのイメージ

題材のテーマに対して、他者の見方や感じ方に共感しつつも、自分なりの表現や鑑賞を追究していく経験を経むことで、今後、未知や未知のものに対して創造性を発揮しながら、新たな意味や価値を生み出していこうとする姿

授業説明

美術科の本質に迫る手立てとして、レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》やクロード・モネの《睡蓮》の鑑賞を題材に、欠落部分や修復された絵から本来の絵を創造する活動を設定しました。コンピューターグラフィックを使った復元画像やAIによる欠損部分の修復など、現代の最新技術と比較検討をしていきました。そうすることで、鑑賞した作品から子どもが自分のもつイメージを基に、作品の意味や価値を見出す姿が見られました。

参会者の声

- ・well-being を実現する力の育成をきちんと具現化されていることがよくわかった。
- ・well-being について大変興味深い内容であり、自分でも実践してみたいと思った。



【技術・家庭科（技術分野）】

教科等の本質に迫る授業

問題を発見し、課題を設定した後に、解決策を生徒たちで構想して具体化しようとする姿が見られる授業

問題解決から探り、問題解決へつなぐ

中学3年 瀬尾 優治



モニターブルを試作している様子



うみぶどうを栽培している様子



学校生活の問題を解決する装置を、プログラミングシステムを用いて、開発している様子

協議会の説明

well-being につながる「AAR サイクル」と技術科における問題解決に関わる「PDCAサイクル」を関連させながら学習活動に取り組みさせることで、技術科の授業が well-being に向かわせることができると考えている。授業の振り返りの際に、学習の取り組み方にも着目させて振り返らせることで、「AARサイクル」につなげることができるのではないかと考える。

参会者の声

- ・ 想定する問題解決の対象範囲を学校だけでなく、実社会にすることでより深い学びのできる問題解決を行えると考える。
- ・ 実社会における問題解決の枠組みそのものを見直し、技術の授業用にアレンジすることで、より多様な問題解決を行うことができると考える。

【家庭科】

教科等の本質に迫る授業

生活をよりよく工夫していこうとする子どもを育成する授業

自分も家族も地球もうれしいご飯とみそ汁 ～食べて元気ご飯とみそ汁～

小学5年 坂本 真友香



トレードオフの課題

自分も家族も地球もうれしいの視点で検討

目的や家庭の状況に応じて最適解



付箋に実の候補を書き出し何を残すかを検討している様子



食品のグループ分け表を見ながら栄養素を確認している様子

授業説明

家族がみそ汁の実を選ぶ視点を自分、家族、地球のどれがうれしいか分類した後、自分が家族にみそ汁を作るなら、とうふ、わかめと「あと一つ」の実を何にするかという課題を設定しました。そうすることで、子どもたちは、「白菜は旬だし食感が好きだけど、彩りを考えるとにんじんかな」などと迷いながら、自分や家族、地球のことを考えてみそ汁の実を決定していくことができました。

参会者の声

- ・ みそ汁というと、時短で栄養を考えたものを作ることができるというのがよさだと思う。それを三方よしの視点で考えられるというのはとても素敵だと感じた。
- ・ well-being に向かうために、自分・家庭・地球と定めたことはとてもよかった。



【体育科】

教科等の本質に迫る授業

他者と協働しながら運動の楽しさを見出したり感じたりする授業

ハンドベースボール (ベースボール型)

小学3年 木田 雅大

<p>○well-beingにつながる力を育成するための手立てとは</p> <p>well-beingにつながる力を育成する手立て</p> <p>「ゲーム中心アプローチ」を用いて、自ら課題を 発見し、解決しようとする学習過程を構築させる</p> <p>AAEスキルを養い、手際に向かう授業</p> <p>ゲームの体験から課題を表出し、解決の方向に話し合い、試したりする</p> <p>well-beingにつながる姿</p> <p>エージェンシーを育成する学習モデル</p>	<p>○体育科の本質に迫る手立てとは</p> <p>体育科の本質に迫る授業</p> <p>他者と協働しながら、運動の楽しさを見出したり感じたりする子どもを育成する授業</p> <p>本單元における体育科の本質に迫った子どもの姿</p> <p>「ベースをとる、とらせない」ために、攻撃や守備に必 要な動きを見出したり、解決しようとする様相</p> <p>教科の本質に迫る手立て</p> <p>・ゲームの要素を、各型別での改良に取る ・ゲーム中心の場元を構築する</p>
---	---



授業説明

ゲームの要素を「ベースをとるか、とらせないか」に焦点化し、「ゲーム」「振り返り」「ゲーム」というゲーム中心の流れを設定しました。そうすることで、子どもたちは、ベースをとりあうという攻防から「捕られにくいボールを打ちたいからどうするか」や「アウトゾーンに早くボールを送るためには何が必要か」など、主体的に課題を表出し、解決しようとする姿が見られました。



参会者の声

- ・子どもが運動する意義を見出し、協働と協力のもと学び続けることが大切な視点だと感じた。
- ・「どこに狙うか?」「アウトにできる陣形は?」のように本時に追究することを絞り、見たりプレイしたりすると、多様な関わり方を通してハンドベースボールの楽しさを実感できるのではないだろうか。



ソフトボール (ベースボール型)

中学1年 高木 菜満恵

<p>○well-beingにつながる姿</p> <p>well-beingにつながるエージェンシー</p> <p>変化を起こすために、 自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力</p> <p>ゲームの中から、目指す姿を見出し、課題を解決するために話し合っていく</p> <p>well-beingの実現「豊かなスポーツライフの実現」</p>	<p>○保健体育科の本質に迫る姿</p> <p><保健体育科の本質></p> <p>他者と協働しながら運動の楽しさを見出したり感じたりする姿</p> <p><本單元における保健体育科の本質に迫る姿></p> <p>仲間と考え、自己やチームの課題、様々な違いに応じて考えていく姿</p> <p><教科の本質に迫る手立て></p> <p>・用具、プレイヤーの人数、グラウンドの広さ等プレイ上の制限の工夫 ・ゲーム中心の場元を構成する</p>
--	--



授業説明

保健体育科の本質に迫る手立てとして、打つ範囲や、塁間を変更して行う活動を設定しました。そうすることで、限られた人数で確実にアウトをとるための守備の配置を考えたり、味方が取りやすくなるための投球の方法を考えたりするなど、工夫して実践する姿が見られました。



参会者の声

- ・小学校の実践では「ボールより早く塁につくこと」をねらいとした実践だった。中学校では、その部分の継続がなかったような気がする。系統性を考えると、中学生に対しての指導方法も考えなければならないのかなと考えさせられた。
- ・中学3年でもつ保健体育に関わる資質・能力につながるための小1からのロードマップをしっかりと作ることが大事だと思う。



【外国語・英語科】

教科等の本質に迫る授業

既得の知識や経験を生かし、コミュニケーションを図ろうとする子どもを育成する授業

おもいで、ぽろぽろ ～My Best Memory～ (教育出版 6年)

小学6年 石津 友美恵

<p>well-beingの実現を図るために</p> <p>教科等の本質に迫る学び 既得の知識や経験を生かして コミュニケーションを図ろうとする</p> <p>well-beingの実現につながる力 ◎エージェンシーの育成 ◎対立・ジレンマの対峙 ◎AARサイクルを回すこと</p> <p>外国語科における well-beingにつながる学びの実践 どのような活動にも、自分の考えを 言葉でのコミュニケーションを通して、 友達（他者）と良好な関係を築くことができる</p>	<p>外国語科のwell-beingを実現させる手立て</p> <p>対立やジレンマの対峙 既得の英語表現から、自分のことを伝えることに通じている表現を選択したり、相手の意見を聞いて、考えを深めたりする力が育つ</p> <p>授業) Theme Talk 時間) 2分間、あるテーマでコミュニケーション を続けるというもの。well-beingの テーマは学習内容やその日に定めるだけで いい。空想日記など各授業者が設定する</p> <p>Theme Talkを授業導入にしている学校が多い しかし、学習して英語表現の持つ・使う・使う場面として いかに活用できるかという点に注目が集まる</p>
--	---



カードゲームで既習表現の確認



実際にクラスを越えたやり取り

授業説明

外国語科の本質に迫る手立てとして、単元導入時に授業者の思い出についての話を聞き、その後自分たちの思い出ランキングを作成する活動を設定しました。他のクラスのランキングを明かさないうことで、友達の考えを「知りたい」という思いをもち、お互いに考えを伝え合うために必要な英語表現は何かを考え、既得の知識を活用してやり取りをする姿が見られました。

参加者の声

- 子供たちの日常につながるテーマトークがとても魅力的で、クラスをこえてのやりとりも子供たちのモチベーションをあげる仕組みになっていた。
- 語彙や表現の面でわからないことがあったとしても、既習の知識を動員して“なんとかする”という力がやはり大切だと改めて感じた。



「推し」自慢で、互いの「好き」を語り合おう Stage Activity2 My Hero(東京書籍 New Horizon1)

中学1年 梅田 彩味

<p>well-beingにつながる学びの手立て</p> <p>適切な英語表現を自ら選択し、自己表現をすることで他者理解を深めようとする。</p> <p>対立やジレンマに対峙する力 責任ある行動をとる力</p> <p>well-beingの実現 「他者理解を深め、良好な関係を築こうとする」</p>	<p>英語科の学習に迫る手立て</p> <p>互いの好きな事柄について詳しく伝え合い、相手に興味をもたせる表現を考える場の設定</p> <p>適切な表現を通じ、 双方向的なやり取りを継続する</p>
---	---



追加する能力紹介の表現を書き出してみる

授業説明

英語科の本質に迫る手立てとして、好きなこと（『推し』）について互いに伝え合い、『推し』についてより詳しく伝えて興味をもってもらうためにはどうしたらよいかを話し合う場を設定しました。そうすることで、自然と即興的な質疑応答の場面が見られ、既習の英語表現から、自分の考えが適切に伝わるものを自ら選びとろうとする姿が見られました。

参加者の声

- 英語を使用して言語活動を行う際、「ミスがあっても大丈夫」と安心して活動できる環境が求められる。
- 生徒たち自身が望み、取り組みたいと思う最終目標を設定できていたか。
- 生徒同士が、一つひとつの課題に挑戦し、その都度、互いに適切な英語表現を使用できているかを確認し合う中間指導が大切である。



【特別の教科 道徳】

本質に迫る授業の在り方

道徳的諸価値の理解を基に、学び、考え、対話し、よりよい生き方を見出そうとする授業

すてきな自分 ～大すきだから（学研教育みらい）～

小学1年 池永真依子

大主題の設定 「すてきな自分」

自分自身のwell-beingにつながっていく

個性の伸長
自分の好きなことに気付くこと

自己を見つめる
自分の得意なことを多面的・多角的に考える

希望と畏れ、喜びと悔い
希望と畏れ、喜びと悔い

家庭生活において自分でやろうと決めた仕事をしっかりと行うこと

自分がやるべきことを、自分がやるべきこととしてしっかりと行うこと

新しい年を迎え、2年生という新しい学年

3次 主題 大好きなことを 教材 大すきだから

内容項目 個性の伸長

展開

①アンパンマンについて知っていることを交流する。
②教材を読み、好きなことに対する思いを話し合う。
・30年以上売れなくても本気で平気だったのか
・やなせさんを変えたのはどのようなのか
③好きなことについて話し合う。
各学習を振り返り、すてきな自分像に考えたことを書く。
・やなせさんから教えてもらったことは何か



授業説明

3時間を貫く大主題「すてきな自分」を設定しました。各教材の登場人物を支えた心はどんな心かを考え、自分にも取り入れたい姿を「すてきな自分」として、ワークシートに蓄積していきました。そうすることで、「すてきな自分」とはどんな自分なのかを多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める姿が見られました。

参会者の声

- 教科書通りに進めるのではなく、大主題を設けて内容項目を連続させることで、その項目について深く考えることができる機会を作れると思った。
- 他教科や行事とも絡めながら、さまざまな学びをつなぐことで、よりよく生きるための力や心を育むことができる可能性を感じた。

未来の「温もりある世界」 ～はしの上のおおかみ（学研教育みらい）～

中学2年 藤永啓吾

おおかみさんの世界を温もり溢れる世界にしてほしいんだ

未来の「温もりある世界」

おおかみさんの住む世界

あら、せかいのつくじかん ぶん
新たな世界を創る時間 10分
えんじから ぶん
演技時間 1分

学びを基に、自らのwell-beingを描く

私たちが住む世界が温かい・温もりある世界になるには、どんなことを実現したらいのか？

描いた「温もりある世界」と今の自分が住む世界とを比べると、どんなことが考えられるかな？

バックカスティング思考

おおかみさんの世界は、温もりある世界なの？

未来の「温もりある世界」を考えると、どんな世界を思い描くの？



授業説明

授業始めに未来の温もりある世界を描き、バックカスティング思考（目標となる未来を想定して、それを実現するために何をしたらよいのかを考える思考法）と創作的な役割演技を通して思いやりや感謝の心を育みました。

参会者の声

- 先進的な取組、特に、小中の合同の授業とwell-beingの可能性を感じた。
- 創作的役割演技の手法は、理想の世界を自分たちで考えることができるのだなと感じた。
- 話合いの在り方や学習内容など、バックカスティング思考でありながらも、未来に向かう思考につながっていくと感じた。

授業づくり研修会のお知らせ

午後からオンライン開催



光小・中学校のいろいろな教科の授業をオンラインで見ることができます！

授業の作り方や単元構成のコツなどを光小・中学校の教諭が御提案します！

オンラインだから、地域に関係なく、いろいろな人と意見交換ができます！

- 山口県内の新規採用者で、初任研学校選択研修を希望される方は、午前中に初任研オプションがあります。申し込みの際に、御確認ください。
- 感染状況に応じて、開催方法や時間に変更になることがあります。
- 研修内容や申し込み等の詳細については、二次案内にてお知らせいたします。また、今後も開催が増えることがあります。光学園ホームページを御確認ください。

春号におきましては、本学園の研究から見えてきた成果や課題に言及しながら、各教科・領域ごとの内容を掲載しました。御一読の上、御意見や御示唆を頂戴できれば幸いです。皆様には今後も変わらぬ御指導と御鞭撻を心よりお願い申し上げ、発刊の御挨拶とさせていただきます。



お問い合わせ先

〒743-0007 光市室積8丁目4番1号

小学校

TEL (0833) 78-0124・FAX (0833) 75-1507
URL <http://www.hikari-es.yamaguchi-u.ac.jp>

中学校

TEL (0833) 78-0007・FAX (0833) 75-1509
URL <http://www.hikari-jhs.yamaguchi-u.ac.jp>

光学園
(小・中)

URL <http://www.hikari-gakuen.edu.yamaguchi-u.ac.jp>



光学園HP

